

平成19年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定内容

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成18年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会
は、平成19年9月12日(水)に東京ガーデンパレスにおいて
開催された。

この検討会には、試験場関係者21名、委託関係者21名
ほか、計74名の参集を得て、除草剤25薬剤(115点)、及

び生育調節剤3薬剤(7点)について、試験成績の報告と検
討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に
示す通りである。

平成19年度 冬作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤 (1) 小麦

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判 定	使用規準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.DPX-16 顆粒水和 チフェンスルフロニメチル 75% [デュボン]	実・継	一年生広葉 雑草、スズメノ テッポウ	土壌または茎葉 兼土壌	播種後～節間伸長前	5～10g 散布水量 50～100L (播種後～節間伸長前)	全土壌 (砂土を除く)	東北～四国	・単用での茎葉処理の場合 は7.5～10g/10aでの使用が 望ましい ・少量散布(25L/10a)の場 合は専用ノズルを使用する。 ・播種後処理の場合はヤエムグ ラに効果が劣る。 ・処理後散布器具をよく洗浄 する。	・散布水量の拡大 ・ソバ、タデ類を対象とし た、東北以南での節間 伸長期以降の効果、薬 害の確認
				スズメノテッポウ 葉期まで	小麦2葉期 処理は水量 100L、10g の小麦3葉 期以降の処 理は水量 25～100L)				
				小麦1葉～節間伸長前	小麦2葉期 処理は水量 100L、10g の小麦3葉 期以降の処 理は水量 25～100L)		九州		
				スズメノテッポウ 葉期まで	小麦2葉期 処理は水量 100L、10g の小麦3葉 期以降の処 理は水量 25～100L)				
		幼穂形成期	7.5～10g 散布水量 100L	北海道					
カスノコグサ	茎葉	小麦1葉～節間伸長前 カスノコグサ1～3葉期	10g 散布水量 100L		九州	・土壌処理剤との体系処理で 使用する			
キシキシ類		小麦幼穂形成期、キシキシ生育期	3～5g 散布水量 100L		北海道	・効果の完成に時間が掛かる 場合がある			
2.HSW-062 フロアブル インタノファン 10.7%、シ フルフェニカン 4.3%(W/V) [北海三共]	継							・効果、薬害の確認(北海道)	
3.MBH-075 乳 ブロスルホカルブ 16% リネロン 11.5% [丸和バイオケミカル]	継							・効果、薬害の確認(東北以南) ・SU 抵抗性スズメノテッポウ、カスノコグサに対する 効果の確認	

A.除草剤 (1)小麦

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用標準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
4.MCP-Na 液 MCPA ‘ナトリウム塩 19.5% [2,4D 協議会]	実・継	広葉雑草	茎葉	幼穂形成期	200～300g 散布水量 25～100L 200～300g 散布水量 70～100L	全土壌	北海道 東北以南	・少量散布(25～50L/10a)の場合は少量散布用ノズルを使用する	・関東以西での処理時期晩期の確認
5.MK-243 フロアフル インタノファン 10% [日本農薬]	実・継	一年生雑草 カスノコグサ *抵抗性スズメノテッポウ	土壌	播種後～小麦3葉期、イネ科雑草1葉期まで 播種後出芽前、雑草発生前 播種後～小麦3葉期、スズメノテッポウ1葉まで	300～500mL 散布水量 100L	全土壌(砂土を除く)	全域	*SU 抵抗性、ジニトロアミン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・北海道での年次変動の確認・カラスミギ、ネズミミギに対する効果の確認・タネツケハナに対する効果の確認・小麦3葉期処理での年次変動の確認
6. NC-613 乳 エスプロカルブ 60%、シフルフェニカン 1.5% [日産化学]	実・継	一年生雑草 一年生雑草 *抵抗性スズメノテッポウ カスノコグサ	土壌	播種後出芽前、雑草発生前 播種後～小麦出芽揃、雑草発生始まで 播種後～小麦出芽揃、スズメノテッポウ発生始まで 播種後～小麦出芽揃、カスノコグサ発生始まで	300～400mL 散布水量 100L 300～500mL 散布水量 100L	全土壌(砂土を除く)	北海道 東北以南	・一過性の白斑を生じることがある*SU 抵抗性、ジニトロアミン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・北海道での出芽直前～出芽揃期の効果、薬害の確認・カラスミギ、ネズミミギに対する効果の確認。
7. NC-622 液 クワリホサートカリウム塩 48% [日産化学]	実・継	一年生雑草 多年生イネ科雑草(シハミギ、レッドトップ)	茎葉	耕起または播種前雑草生育期(草丈 30cm 以下) 播種後出芽前雑草生育期(草丈 30cm 以下) 小麦生育期雑草生育期(草丈 30cm 以下) (圃場周縁) 耕起前雑草生育期(草丈 30cm 以下)	200～500mL 散布水量 25～100L	全土壌	全域 東北以南 北海道	・少量散布(25～50L/10a)の場合は少量散布用ノズルを使用する・周辺作物に飛散しないように注意する	・播種直前処理の薬害について年次変動の確認

A. 除草剤 (1) 小麦

注) アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準						継続の内容		
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意	
8.RSH-44 乳 ジフルフェニカン 3.7%、 トリフルリン 37.0% [バイエル クロップ サイエ ンス]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	150～ 250mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・葉に白斑を生じる場合があ る。	・低薬量での効果の確 認 ・処理時期、地域の拉 大 ・カスノコグサ、ネズミキに 対する効果の確認	
200～ 250mL 散布水量 100L					東北以南					
茎葉兼 土壌					小麦 1～3 葉 期		100～ 150mL 散布水量 100L			北海道
小麦 2～3 葉 期					200～ 250mL 散布水量 100L		東北、北陸			
9.RSH-44(L)粉粒 ジフルフェニカン 0.15% リフルリン 2% [バイエル クロップ サイエ ンス]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	3～5kg 4～6kg	全土壌(砂 土を除く)	北海道 東北以南	・一過性の白斑を生じること がある。	・生育初期処理での効 果の変動要因の解明・ カスノコグサ、ネズミキに 対する効果の確認	
小麦 1～2 葉 期					4～5kg					
10.SYJ-100 乳 ブロスルホナル 78.4% [シンジェンタ ジャパン]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	400～ 500mL	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・葉斑、黄化、縮葉などの症 状がみられる場合がある。	・SU 抵抗性スズメノテッ ポウ、カスノコグサ、カラス ミキ、ネズミキに対する効 果の確認	
小麦 1～2 葉 期				散布水量 100L	東北以南					
播種後～小麦 2 葉期										
11. WOC-01 液 グリホサートイソプロピルア ミン塩 41% [三共アグロ]	実・継	多年生イネ科 雑草	茎葉	耕起または播 種前、雑草生 育期(草丈 30cm 以下)	250～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	北海道	・少量散布(25～50L/10a) の場合は少量散布用ノズルを 使用する ・周辺作物に飛散しないよう に注意する	・播種直前処理の被害 について年次変動の 確認 ・圃場周縁処理での効 果、被害の確認	
一年生雑草		播種後出芽 前、雑草生 育期(草丈 30cm 以下)		250～ 500mL 散布水量 100L	東北以南					
12.YF-65L 液シクワ ット 7%、バロコート 5%[シ ンジェンタ ジャパン]	実	一年生雑草	茎葉	小麦生育期雑 草生育期(草 丈 30cm 以下) (圃場周縁)	600～ 1000mL 散布水量 100L	全土壌	東北以南	・周辺作物に飛散しないよう に注意する		

A. 除草剤 (2) 大麦

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用規準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
2.MK-243 フロアフル インダノファン 10% [日本農薬]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後～大麦 2 葉期(イネ科 雑草 1 葉期ま で)	300～500ml 散布水量 100L	全土壌(砂 土を除く)	東北以南		・年次変動の確認 ・SU 抵抗性スズメノテッポ ウへの効果の確認 ・タネツケバナに対する効 果の確認
3.NC-613 乳 エスプロカルブ 60%、シ フルフェニカン 1.5% [日産化学工業]	継								・大麦播種後～出芽摘 期処理での効果、薬害 の確認 ・SU 抵抗性スズメノテッポ ウ、カズノコグサ、ネズミキ に対する効果の確認
4. NC-622 液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播 種前 雑草生育期 (草丈 30cm 以 下) 播種後出芽前 雑草生育期 (草丈 30cm 以 下) 大麦生育期 雑草生育期 (草丈 30cm 以 下) (圃場周縁)	200～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	全域	・少量散布(25～50L/10a) の場合は少量散布用ノズルを 使用する ・周辺作物に飛散しないよう に注意する	・播種直前処理の薬害 について年次変動の 確認
5. ZK-122 液 グリホサートカリウム塩 43% [シンジェンタ ジャパン]	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播 種前 雑草生育期 (草丈 30cm 以 下) 大麦生育期 雑草生育期 (草丈 30cm 以 下) (圃場周縁)	250～ 500mL 散布水量 25～100L 250～ 500mL 散布水量 25～50L	全土壌	全域	・少量散布(25～50L/10a) の場合は少量散布用ノズルを 使用する ・作物に飛散しないように注 意する	・播種後出芽前処理で の薬害について

A. 除草剤 (3) いぐさ

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用規準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. DPX-16(L) <u>細粒</u> チフェンスルフロメチル 0.15% [デュポン]	実	スズメノテッポウ、一年生広 葉雑草	土壌	落水管理期、 雑草発生前～ 始期	2～4kg	全土壌(砂 土を除く)	全域	・他剤との組合せで使用する ・処理後 15 日間は入水をし ない	
2. G-315B 乳 オキシジアゾン 8% ブタクロール 12% [日産化学工業]	実	一年生雑草	土壌(湛 水)	植付後～スズメ ノテッポウ 3 葉期 またはバビエ 1.5 葉期	300～500ml	壤土～壇 土	全域	・他剤との組合せで使用する ・吸着の悪い土壌(砂壤土、 <u>腐植含量の少ない土壌</u>)で は、薬害を生じる事がある	

A. 除草剤(4) 水稲刈跡

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. NC-622 液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	実・ 継	一年生雑草	茎葉	水稲刈取後 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)	200～ 500mL	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L/10a) の場合は専用ノズルを使用する	・ミスガヤツリ、オモダカ、クロ グワイ以外の多年生雑 草に対する、翌年の発 生量低減効果の確認 ・寒冷地以北での効果 について
		多年生雑草			500～ 1000mL				
		ミスガヤツリ、 オモダカ、クログ			散布水量 25～100L				
		ワイ (翌年発生 低減効果)			散布水量 25～100L				
2. ZK-122 液 グリホサートカリウム塩 43% [シンジェンタ ジャパン]	実・ 継	一年生雑草	茎葉	水稲刈取後 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)	200～ 500mL	全土壌	東北以南	・少水量散布(25～50L/10a) の場合は少量散布用ノズルを 使用する	・オモダカ以外の多年生 雑草に対する、翌年の 発生量低減効果の確 認 ・寒冷地以北での効果 について
		多年生雑草			500～ 1000mL				
		オモダカ			散布水量 25～100L				
		(翌年発生 低減効果)			散布水量 25～100L				

B. 生育調節剤

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. ALP-05 液 D-Carivone 95% [アリスライフサイエンス]	実	・ハレシヨ対象 ・萌芽抑制	ミスト処理 (専用器 具使用)	ハレシヨ貯蔵 中(1週間毎)	処理回毎に 15～30mL /ハレシヨ1t	—	北海道	・処理開始前に萌芽が始ま ると抑制効果が劣る場合がある ので留意する	
2. KUH-833F(M)フロ アブル プロヘキサシオンカルシウ ム塩 5% [クミアイ化学工業]	実 (従来どおり)	・小麦対象 ・節間伸長 抑制による 倒伏軽減	茎葉	止葉期～ 出穂 5 日前	150mL 散布水量 100L	全土壌	全域	・止葉期とは止葉が確認でき た日を目安とする	
3. エテホン液 エテホン 10% [日産化学工業]	実・ 継 (従来どおり)	・小麦対象 ・節間伸長 抑制による 倒伏軽減	茎葉	止葉期～ 出穂始期	300 ～ 500 倍 散布水量 100L	全土壌	北海道	・止葉期とは止葉が確認でき た日を目安とする	
				出穂始期	75 倍～125 倍 散布水量 25L		東北以南		
				穂ばらみ期～ 出穂始期	300 ～ 500 倍 散布水量 50～100L		東北～四 国		
				出穂始期	500 倍 散布水量 100L				・処理時期、散布水量 と効果の検討